

学会参加レポート

14th Meeting of the ASIAN-PACIFIC Society for Neurochemistry 参加レポート

Wu Meng-Ya

(名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理学講座)

2016年8月27日～30日 14th Meeting of the ASIAN-PACIFIC Society for Neurochemistry がマレーシアのクアラルンプールにて開催され、私は幸いにも日本神経化学会からのトラベルアワードを受賞し、それに出席することができました。そこで、ここにご報告させていただきます。

私は、開催日の2日前から研究室の先輩と供にクアラルンプールに向かいました。本大会は、私にとって初めての国際会議であったために、緊張と共に期待で胸を弾ませていました。名古屋からクアラルンプールへの直行便はなく、一度上海での乗り換えが必要でしたが、比較的すぐに現地に到着しました。到着した時には、既に深夜になってしまっていたために、空港で一晩を明かしました。翌日ホテルに到着した後に、学会会場の付近を少し散策しました。マレーシアは東南アジアに位置しますが、日本とは1時間の時差しかないために、マレーシアの時間帯にすぐに慣れることが出来ました。クアラルンプールは、エキゾチックな熱帯植物やイギリス統治時代の面影を残す歴史的な建造物、各民族のモスクや寺院など混在している独特な景観を持つ、非常に美しい街並みで大変印象的でした。また、ホテルの近くには観光地であるブキッ・ビンタン通りがあり、市場では多くの人で賑わっていました。私はクアラルンプールの繁華街にて地元料理や果物などを満喫しました。その後ホテルに戻り、ポスター発表に向けて準備を行いました。

クアラルンプールの名所であるペトロナスツインタワーまで、歩いて10分程度のところに、本学会の会場である「Hotel Istana Kuala Lumpur」があり、非常に豪華なホテルであることに驚きました。初日は、海外の研究者の発表を聞き、最新の神経化学に関する多くの情報を収集しました。夕方には、学会会場にてパーティーがあり、海外の学生や研究者とマレーシアの民族舞踊を見ながら、交流を深めました。私にとって大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。2日目に、私は「Long-Range Inhibitory Signaling Regulates Robust Neuronal Polarization」というタイトルでポスター発表を行いました。発表内容は、神経細胞がどのようにして1本のみの軸索を形成・維持するのかという、神経科学の分野で最も基本となる課題です。私は、伸長中の軸索からその他全ての突起（樹状突起）に向けて長距離の抑制性シグナルが作用することで、複数の軸索形成を抑制していることを明らかにしました。今回の発表が私にとっての国際会議での初めての発表となりましたが、多くの先生がご興味を持ちご来聴していただきました。また、様々な視点からの質問を頂けるだけでなく、今後の研究課題となる多くのご助言やご意見を頂きました。本大会のセッションでは、「Molecular pathways in Autism Spectrum Disorders」と「Generating New Neurons From Development to Cell-based Therapy」に非常に興味を持ちました。特に、シンガポールの先生のシナプス形成に関する発表で、3D neuron culture や mini-Brain という最

新の実験手法を用いている点が非常に印象的でした。

今回、日本神経化学会から旅費のご援助をしていただき、心から感謝しております。多くの素晴らしい研究者と出会えたことが非常に光栄だと感じています。また、本学会から学んだ多くのこと、そして大変貴重な体験を、今後の私の研究に活かして一層精進していきたいと深く感じています。最後にこの場を借りてご尽力いただきました日本神経化学会国際対応委員会に深く御礼申し上げます。



会場入り口にて、他のトラベルアワード受賞者らと（左端が筆者）